

年間第 18 主日 (マタイ 14:13-21)

ここにはパン五つと魚二匹しかありません



8月になりました。短めに話をしたいと思いますが、うまく行くかはわかりません。長崎教区は今のところ、司祭を目指す人を小神学院から育て始めています。仮に学校での勉強が全くできなくて「でも司祭になりたい」という人には、私は神学院は勧めません。最近体験入学があって、そこには対象者を全員行かせようとしていますが、その中でも多少勉強について行けそうな子供に声をかけます。ずっと先の勉強のことを思うと、心配だからです。

なにせ、神学院は消灯時間が決まっています。学校の宿題があり、神学院での授業があり、時間内に終わられる学力・能力がないと、ついていけないからです。かつては声をかけられる子どもたちは割と学校の勉強の先頭にいる子どもたちでした。

しかしいざ入学してみると、上には上がいるもので、以前も話したかと思いますが、中学校の1年生から高校3年生まで、ずっと成績1番だった同級生がいました。もう一人、ずっと成績2番だった同級生もいました。ただ、その二人は司祭にはなっていません。社会で活躍して恩返しをしてくれています。ということは、司祭になったのは誰か？成績3番以降の生徒たちでした。

もちろんすべての学年で同じ傾向だったわけではありません。中村大司教様のクラスは、とても優秀で、以前の大神学院に残った同級生の神父様も中村大司教様も、大学課程の中で教員資格を取るほど優秀でした。かつての松永司教様は、高校二年生時代に高校三年生が教えを請うていたというほど優秀だったそうですから、例外はあるのでしょう。ただ、私の記憶する限り、超優秀な生徒はなぜか残りませんでした。

何が言いたいのか。ここから福音朗読と繋がります。イエスは弟子たちに、「あなたがたが彼らに食べる物を与えなさい」(14・16)と言われます。弟子たちはこう返事をしました。「ここにはパン五つと魚二匹しかありません」(14・17)私は思うのですが、実際にパン五つと魚二匹を指していたと理解するのが常識的ですが、あるいは自分たちのことをそう言ったのかもしれませんが。自分たちは五千人もの人々を十分食べさせるだけの存在ではない。そういうことだったかもしれません。

弟子たちの中に、非常に優秀、誰が見ても羨ましがするような弟子がいれば、策を提案できたかもしれません。しかしイエスの弟子たちは、客観的には成績3番、4番、5番のメンバーだったのです。イエスと弟子たちは少なくともエルサレムに三度神殿礼拝に行っているはずですが、その時とても優秀な人たち、高貴な人たち、大金持ちなどを見たに違いありません。自分たちより遥かにイエスの弟子にふさわしそうな人たちを見て、自分たちがもっと低い能力や身分の弟子だと思い知らされたに違いありません。

しかし、イエスは「それをここに持って来なさい」と言い、ご自分

全能の神よ、聖なる福音をふさわしく告げるため、わたしの心と口を清めてください。

が祝福して群衆にお渡しになったのです。その結果、残ったパンの屑を集めると十二の籠いっぱいになりました。ついこの前、熊本で例のないほどの地震がありました。ガス爆発でショッピングセンターも吹き飛びました。これから、支援が始まると思いますが、およそ1万人の避難者を十分養うことは非常に困難です。

小さな助け合い、つまりパン五つと魚二匹かもしれない支援を、イエス様が何十倍、何百倍にも増やしてくださるよう、心から願います。私たちの小教区も、8月16日のミサ献金を、令和8年熊本地震の支援に当てたいと思っています。

そして最後に、成績3番から5番を行ったり来たりしていて、のちに司祭になった私の同級生三人も、今現在置かれた場所はそれぞれですが、イエス様の食べ物を必要としている五千人の人々に、イエス様に使ってもらって自分を割き与え、最終的に残ったパン屑が十二の籠いっぱいになるような働きをしたいと思っています。だんだん歳を重ねていきながら、そういう気持ちが湧いてきました。

年間第19主日(マタイ 14:22-33)

福音のことばによって、わたしたちが罪から清められますように。